農業と科学　昭和60年8月1日(毎月1日発行)第341号
昭和31年10月5日　第3種郵便物認可
発行所　〒112 東京都文京区後楽1－7－12 林友ビル
チッソ旭肥料株式会社
編集兼発行人：柴田　観
定価：1部35円

農業と科学　1985 8
CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

昭和60年度 農業観測の概要

農林水産大臣官房調査課
田村修一

以下は，7月16日に農林水産省が公表した「昭和60年度農業観測」の概要をとりまとめたものである。

1. 国内経済

我が国経済は，アメリカ経済の回復，在庫調整の終了，石油価格の低下及び物価の安定等に支えられ，58年度以降回復基調に転じ，順調な拡大過程を歩んでいる。59年度も，物価の安定を基礎に，輸出が引き続き増加傾向にあったほか，設備投資も順調に増加し，個人消費，住宅建設等その他の国内需要についても緩やかな増加基調で推移し，景気は全体として拡大を続けた。この結果，59年度の実質経済成長率は5.7%となった。

60年度については，政府経済見通しでは，物価の安定を基礎に国内民間需要を中心とした景気の着実な拡大が図られ，4.6%程度の実質成長が見込まれている。しかしながら，我が国経済は，民間活動がその主体をなすこと，国際環境の変化には予見し難い要素が多いこと等から，今後これらの動向には十分留意する必要がある。

2. 農業経済

（農業就業人口）

農業就業人口は，56年度以降，労働力需給が緩和傾向で推移したこと等から減少率は鈍化しており，58年度は減少率がやや高まったが，59年度には2.2%減となった。

60年度については，引き続き農業就業者の高齢化による引退等自然減が見込まれるほか，雇用情勢の改善が見込まれていること等からみて減少テンポはやや高まり，2～4%程度減少すると見込まれる。

（農業生産資材価格）

農業生産資材の農村価格は，近年，落ち着いた動きが続いている。59年度は，上期前半に飼料や農業機械の値上がり等から上昇したが，その後，飼料や肥料の価格引下げなどから落ち着いて推移し，年度間では0.3%高となった。

60年度については，海外原材料価格が総じて落ち着いた動きを示していることや総合卸売物価も安定した動きが見込まれることなどからみて引き続き落ち着いて推移し，年度間では0～2%程度下回ると見込まれる。

（海外農産物需給）

1984／85年度については，小麦は，ソ連，カナダは減産となったものの，アメリカ，中国，EC等で増産となったことから，需給は引き続き安定的に推移している。また，飼料穀物は，ソ連は干ばつ等によりかなり大きく減産となったものの，アメリカが大幅に増加したほか中国，西欧でも増産とみられ，全体では17.3%増の史上最高となり，需給はひっ迫気味となった前年度に比べ緩和の方向で推移している。大豆も，アメリカ，ブラジルが増産とみられることから，需給は，ひっ迫気味となった前年度に比べ緩和の方向で推移している。

本号の内容

§ 昭和60年度農業観測の概要……(1)
農林水産大臣官房調査課　田村修一
§ 細粒質強グライ土壌における硝酸系コーテング肥料の効果……(5)
農林水産省北陸農業試験場　伊藤滋吉
§ 鉢物用ガーベラの栽培……(11)
東京都大島農業試験地　浜田豊

1985／86年度については，①小麦生産は，アメリカでは作付面積の減少から減産となるものの，ソ連，中国，カナダ等で増産となり，全体では史上最高となった前年度をわずかに上回るとみられる。また，消費はわずかに増加するとみられることから在庫率は引き続き高水準となり，需給は安定的に推移すると見込まれる。②飼料穀物生産は，アメリカではやや増産となるほか，ソ連は前年度の干ばつによる減産からかなり大きく回復するとみられ，全体ではわずかに増加すると見込まれる。一方，消費はわずかに増加するとみられることから在庫率は上昇し，需給は引き続き緩和の方向で推移すると見込まれる。③大豆生産は，アメリカでは単収増等により増産とみられ，ブラジル等でも高水準の生産が見込まれ，全体では大きく回復した前年度とほぼ同程度と見込まれる。また，消費には大きな変化がないとみられることから在庫量はわずかながらも増加し，需給は引き続き緩和の方向で推移すると見込まれる。

以上の需給動向からみて，1985／86年度に入ってからの価格動向については，小麦・大豆はほぼ現在程度の水準で安定的に推移するとみられ，飼料穀物は，当面は現在程度の弱含み基調で推移すると見込まれる。

3.　農産物需要

経済の高度成長期を通じて高い伸びを続けていた食料消費は，50年代に入り，安定成長のもとでその伸びは鈍化してきている。

実質飲食費支出は，40～48年度間では年率6.3％の増加であったが，50～57年度間では年率2.3％増にとどまっており，58年度は0.9％増となった。59年度についても，1％程度の低い伸びにとどまったものとみられる。

また，1人当たり実質食料費支出（全世帯）は，57年度に2.0％増となったものの，58年度は，個人消費の停滞に加え，食料品消費者価格の上昇率が相対的に高かったこと等もあって0.4％減，59年度も0.8％減と減少傾向で推移した。59年度の費目別実質食料費支出の動きをみると，主食は2.0％減となり，副食品については，魚介類が減少したものの，肉類等その他の費目は増加し，全体では0.3％の増加となった。し好食品は，果物が高値で推移したため7.3％減と大きく減少したほか，菓子類，酒類も減少し，全体では2.2％の減少となった。また，56年度以降増加傾向にあった外食は0.2％減と減少に転じた。

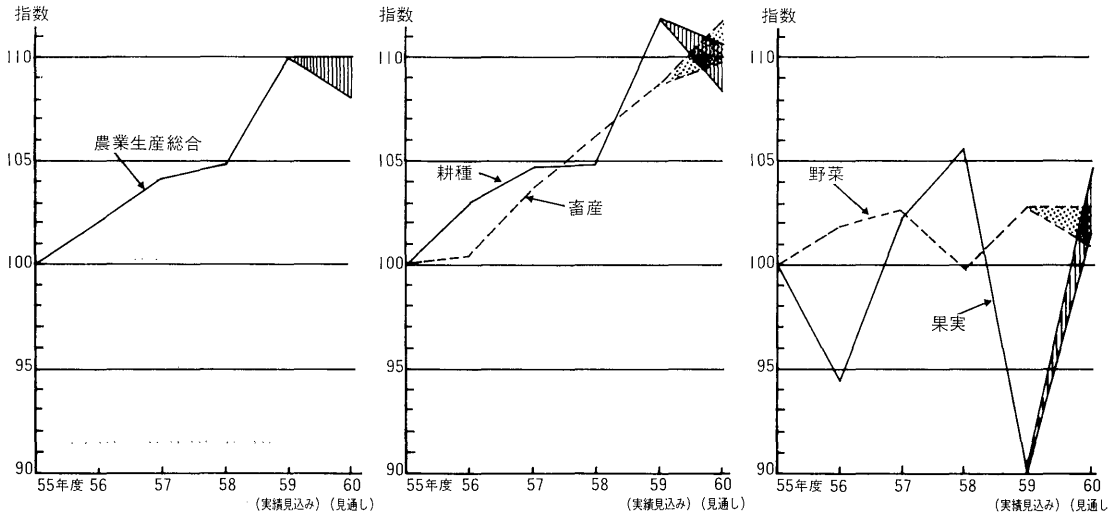
60年度の食料消費については，㋐実質民間最終消費支出は，政府経済見通しによれば4.1％程度の増加と見込まれており，個人消費は物価の安定等を基礎に引き続き緩やかに増加すると見込まれる。㋑食料品の消費者価格は，農産食料品全体では消費者物価総合の上昇率を下回るわずかな上昇にとどまると見込まれる。㋒一方，家計の自由裁量所得の伸びは60年度においても実収入の伸びを下回って推移するとみられ，消費者の食料品の購入には，より割安な品目を選択するという工夫，対応も続くものとみられる。以上から，60年度の農産物の最終需要に影響する実質飲食費支出は停滞傾向で推移した前年度の伸びを上回りわずかに増加するものと見込まれ，農産物需要も緩やかに増加すると見込まれる。

4.　農産物供給

（国農業生産）

59年度の農業生産は，繭生産が17％程度減少したが，耕種生産が6％程度，畜産生産が3％程度それぞれ増加

図1　農業生産の動向（55年度＝100）



したため，農業生産総合では低温，台風等の影響を受け停滞した前年度に比べ5％程度増加した。

60年度については，㋐耕種生産は，作柄を平年並みとみれば，豆類が2割程度，いも類が1～3％程度，工芸農作物が2～4％程度，野菜が0～2％程度それぞれ減少するとみられ，麦類が0～3％程度，果実が1～2割程度それぞれ増加すると見込まれる。なお，米については「米穀の管理に関する基本計画」によれば，生産予定量（主食用等）1,095万トンに加え，前年に引き続き他用途利用米約27万トンの生産が見込まれている。以上のことから，耕種生産総合では2％程度減少すると見込まれる。㋑繭の生産は，厳しい生糸需給事情を反映し，かなり減少すると見込まれる。㋒畜産生産は，鶏卵がほぼ前年度並みとみられるほか，肉用牛，豚，生乳，ブロイラーは増加するとみられ，畜産生産総合では2％程度増加すると見込まれる。以上のことから，農業生産総合では，総じて豊作となった前年度に比べ1％程度減少すると見込まれる。

（農産物輸入）

59年度の農産物輸入は，農林水産省「農林水物輸出入の数量・価格指数」によれば，飼料穀物，生鮮果実の増加等から全体では2.2％増となった。

60年度については，生鮮果実はグレープフルーツやパインアップルの減少等から3～6％程度の減少，食肉も前年度並みないしわずかに減少すると見込まれる。一方，飼料穀物は1～3％程度の増加，大豆はわずかに増加すると見込まれ，麦類も増加が見込まれることから，全体ではわずかに増加すると見込まれる。

5.　農産物生産者価格

59年度の農産物生産者価格は個別にみれば変動の大きなものとなったが，上期では，野菜，果実及び畜産物など総じて弱含みで推移したものの，下期に入り果実及び工芸農作物等が上昇し，年度間では0.5％の上昇となった。作目別には，野菜は，春野菜が低温等の影響による供給減から前年度水準を上回ったが，夏秋野菜，秋冬野菜が好天による入荷量の増加から前年度水準を大幅に下回ったため，全体では14.7％下回った。果実は，みかん，りんごが供給減からそれぞれ前年度水準を大幅に上回り，全体では44.8％上回った。繭は，生糸の需給動向を反映し3.9％下回った。畜産物は，生乳がほぼ前年度並みのほかは，鶏卵，肉用牛，肉豚，肉鶏等はいずれも前年度水準を下回ったことから，全体では1.6％下回った。なお，米の政府買入価格は前年産比2.2％引き上げられたほか，麦の政府買入価格，ばれいしょ大豆の基準価格はいずれも据置きとなった。

60年度については，㋐野菜は，春野菜が出回り量の増加からかなり下回り，夏秋野菜，秋冬野菜が安値で推移した前年産に比べそれぞれやや，かなり上回ると見込まれ，年度を通じてはややないしかなりの程度上回ると見込まれる。㋑果実は，みかん，りんごとも高値で推移した前年産を大幅に下回るとみられ，全体でも大幅に下回ると見込まれる。㋒繭はほぼ横ばいで推移すると見込まれる。㋓畜産物は，鶏卵，生乳はほぼ前年度並み，肉豚はやや下回り，肉鶏はわずかに下回り，肉用牛は前年度並みないしわずかに上回るとみられ，全体ではわずかに下回ると見込まれる。㋔60年産米麦の政府買入価格はともに据置きとなった。以上のこと等から，60年度の農産物生産者価格（総合）は，わずかに下回ると見込まれる。

6.　農家経済

近年の農家経済は，不順な天候や農産物価格の低迷等から農業所得が伸び悩むなど厳しい状況で推移したが，59年度は稲作収入の増加等から農業所得が増加するなど，総じて改善方向で推移した。

表1　農家経済の動向（全国1戸当たり平均）

（対前年度増減（▲）率（%））

区分	56年度	57	58	59（概算）
農業所得	1.6	▲1.7	4.0	7.9
農業粗収益	5.4	0.9	4.5	5.9
農業経営費	7.9	2.5	4.8	4.8
うち現金支出	6.6	0.6	3.9	4.1
農外所得	6.8	5.5	3.0	3.8
給料・俸給	6.4	5.1	3.0	3.5
被用労賃	2.8	▲4.1	▲0.6	▲0.6
農外事業等の収入	▲2.5	7.8	5.4	1.1
出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入	6.4	9.2	7.9	4.7
農家総所得	5.8	5.0	4.1	4.6

59年度の農家経済の動向をみると，農業粗収益は，米が豊作となったことのほか，果実価格の上昇もあって5.9％の増加となった。一方，農業経営費（現金支出）は，農業生産資材の農村価格が0.3％高と安定的に推移したものの，農業生産資材の投入増もあって4.1％の増加となった。このため，農業所得は7.9％の増加となっ

た。また農外所得は，景気が拡大基調で推移したこと等から3.8％の増加となり，出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入は4.7％の増加となった。以上のことから，農家総所得は，前年度の伸び（4.1％増）を上回る4.6％の増加となった。

地域別に，59年度の農業所得（現金収支）の動向をみると，前年度の天候不順から落ち込んだ北海道が米の作柄にも恵まれ大幅に回復するとともに，東北，中国，四国，九州等が高い伸びとなったほか，北陸，近畿も増加した。これに対して，関東・東山，東海は前年度を下回った。

60年度における農家経済については，農業生産は1％程度減少し，農産物生産者価格はわずかに下回るとみられることから，農業総産出額はわずかに減少すると見込まれる。一方，投入面では，㋐農業生産資材の投入（実質）は0～2％程度の増加とみられ，農業生産資材の農村価格は0～2％程度下回ると見込まれる。㋑固定資産の償却費は，近年における固定資産購入の伸び悩み等を考慮すると，伸びは鈍化するもの㋒引き続き増加傾向で推移すると見込まれる。以上から，投入経費はわずかに増加すると見込まれる。このような農業総産出額及び投入経費の見通し等から生産農業所得は伸びを高めた前年度に比べればやや減少すると見込まれる。

これらのことから，1戸当たり平均でみた農業所得は，かなり増加した前年度と比べればやや減少するものの，58年度対比ではわずかに増加すると見込まれる。農外所得も景気回復に伴う労働力需給の改善もあってやや増加すると見込まれ，農家総所得は前年度に引き続きやや増加すると見込まれる。

表2　昭和60年度農業観測総括表

	対前年度増減(▲) 率(%)			60年度見通し
	57年度	58	59(実績見込み)	
実質飲食費支出	3.8	0.9	1程度	わずかに増加
農業生産	2.0	0.7	5程度	1％程度減少
農産物価格	▲2.1	2.2	(概算) 0.5	わずかに下回る
農業生産資材価格	▲0.3	▲0.5	(〃) 0.3	0～2％程度下回る
生産農業所得	▲3.2	3.2	5程度	やや減少

チッソ旭の新肥料紹介

★作物の要求に合せて肥料成分の溶け方を調節できる画期的コーティング肥料……

ロング〈被覆燐硝安加里〉　LPコート〈被覆尿素〉

★緩効性肥料……CDU

★バーミキュライト園芸床土用資材……与作V1号

★硝酸系肥料のNo.1……燐硝安加里

★世界の緑に貢献する樹木専用打込み肥料……グリーンパイル

チッソ旭肥料株式会社